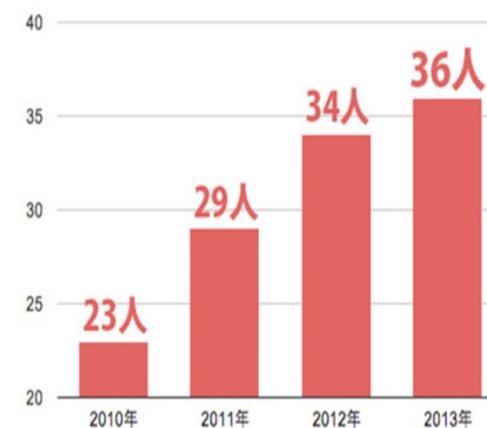


# エンジニアリングデザイン チーム9

## 〇〇スマホの安全化および最適化

近年スマートフォンに関わる問題が増加傾向にあります。例えば歩きスマホに関しては、右のグラフのように歩きスマホ中の事故で救急搬送された件数が年々増加してきています。歩きスマホは画面に集中するあまり周りに注意を払えず、人とぶつかったり、物にぶつかったり、何かにつまづいたり大変危険な行為です。しかし、これほどスマートフォンが普及した現在、歩きスマホを禁止するのははたして可能なのでしょうか？車も一歩間違えば大変危険なものですが、周りに注意を払って操作すれば事故は防げます。ですから、歩きスマホ時にも周りに注意を払えば事故は防げるのではないのでしょうか？



スマートフォンの普及につれ、この3年間で救急搬送者が**1.5倍**にも増加

図1.東京都における「歩きスマホ」で救急搬送された人の推移

(グラフ「歩きスマホなどに係る事故に注意！！」東京消防庁より)

我々は、〇〇スマホに対しこれまでと違った問題解決方法を提示します。

# 私たちがアプローチする課題

## • 歩きスマホ



言わずと知れた歩きスマホ、各国では様々な対策がなされており、歩きスマホ防止アプリなども作られるようになりました。我々は、歩きスマホを禁止するのではなく、「安全に歩きスマホを行う」というコンセプトで本問題を解決します。人が何かに集中しているときの視野は狭くなるが、集中状態を解除できれば視野が広がるという我々の実験結果を基に、歩きスマホ中のスマホ画面への集中を遮断し、視野を広げさせることで周りの状況を判断させて事故を予防するアプリの開発を行っていきます。

## • 壁スマホ



道の真ん中などで立ち止まってスマホなどを操作し、通行の妨げとなることを我々は「壁スマホ」と呼び、本問題に対処していきます。GPSを用いて現在位置を取得し、道の真ん中で立ち止まってスマホを操作している場合には注意をし、場所の移動を促すアプリの開発を行っていきます。

## • 家スマホ



家の中でだらだらとスマホをいじってしまったり、スマホに過度に集中しすぎて呼ばれたことに気づかない、などスマホにまつわる家の中での諸問題に対し解決案を提示します。

本プロジェクトではまず、スマホ操作中でも他者からの呼びかけに対して反応できるようにするためのアプリ開発を行っていきます。